

下野市立石橋中学校

1 学校課題 「主体的・対話的で深い学びに導く授業の創造」

～魅力ある学習課題の設定と「書くこと」の指導を通して～

本校では生徒が協働して課題解決をする「学び合い」の授業を実践している。しかし、すべての教室で生徒同士が対話しながら深く学ぶ授業になっていないという課題があった。また、学び合いに参加できず置いて行かれてしまう生徒もみられた。その原因として考えられるのは『型』は取り入れているが、学びに向かう集団づくりができていないことや生徒にとって魅力ある課題の提示ができていないことなどが挙げられる。

学びに向かう集団づくりで欠かせないポイントは、何を言っても大丈夫という安心感とお互いに支えあっているという仲間への信頼感である。まず、生徒同士の人間関係づくりを見なおす必要があると考えた。また、生徒が容易に解決できない課題、知的好奇心を揺さぶるような課題の提示も深い学びを実践するためには必要不可欠である。一人では解決できないような課題を仲間と協働して解決する過程を通して、主体的・対話的で深い学びは実現されると考える。そこで生徒が主体となる授業をコーディネートする力をつける研究も進めてきた。本校の生徒は自己有用感が低いことも課題である。学び合いの授業を通して「できた」「わかった」という体験を数多くさせることで自己有用感を高めていきたいと考えた。これらの課題を解決するために、教師も協働して以下の実践を行った。最後に、「振り返り」の充実が昨年度から研究を継続しているが、今年度はさらに生徒の思考を論理的に筋道立ててまとめる手段として「書くこと」を全教科で実践した。書かせる内容については、「育成すべき資質・能力」の三つの柱のどの力をねらうのかを視野に入れ「書くこと」ことで生徒の「深い学び」につながる振り返りとした。

2 研究計画

- ・生徒の学びの保証～魅力ある学習課題作り（教科部会を有効活用）
- ・専門家としての教師力（授業力）の向上
- ・通常学級における学びに困難を抱えた生徒への対応について（インクルーシブ教育の実践）

①教員の授業力向上に関すること

校内研修（通年）・教科部会（通年毎週1回）・外部機関との連携（年8回）・授業アンケート（年2回）・石中フォーラム（2月）

②生徒力の向上に関すること（コミュニケーション能力の向上→対話力UP）

アサーショントレーニング（通年週2回）・石中タイム（毎日）・学習委員会生徒による活動（定期的）



3 研究内容

教員の授業力向上

①校内研修 校内研修の特徴として、次のようなことが挙げられる。

- 学校の課題を具体的な研修課題として共有できる。
- 日常の教育実践に即した研修課題を、学校全体で解決していくことができる。
- 研修の成果を直接子どもの指導に反映できるので、教育実践の充実・改善につながる。
- 共通の目標達成に向けて取り組むので、教員間の協働意識を高めることができる。
- 研修の時間や場を、学校の実態に合わせて設定できる。

しかし、研修の実施に当たっては、これまでにも、いくつかの問題点が指摘されてきた。「研修に対する各教員の意欲が低い」「同僚ゆえに厳しい相互批判がしにくい」「指導者や研究推進者の力量に負うところが大きい」「一斉の研修時間が確保しにくい」等である。そこで昨年度に引き続き異教科異年齢4人の班を構成し4ヶ月に渡り一人一授業公開及び15分間の授業研究会を実施した。班のメンバーがビデオ撮影をした。

②教科部会（時間割に位置づけ）

教科部会を時間割に位置付けることで異教科から学んだ多様な視点を縦、教科で専門的に話し合うことを横とし、縦横相互に連携・補完し合うよう実施することによって、教員の研修への意欲も高まり、より資質能力の向上が図ら



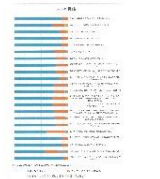
れていくと考えた。

③外部機関との連携

県の学力向上推進員の年5回の訪問、S&U コラボ事業の大学教授による年3回指導訪問、特別支援教育の専門家や小児科医師の講演会など、専門的な視点からの指導助言を得ることで、日頃の多忙さから閉鎖的な学校に外の風を入れることができた。また、新たな知や最新の理論を学ぶことができた。

④授業アンケート（マークシート方式を導入し集計などはスキャナー活用）

年間2回（夏・冬）授業アンケートを以下の流れで全教員実施した。①授業を生徒が評価する②結果から自分の授業の強み弱みを知り授業改善に生かす④第2回実施後、結果を数値化する⑤自分の授業の課題を客観的に割り出す。教師は生徒の学びを常に意識した授業作り、学習課題の作成に意識を集中する必要があることを共通理解した。



⑤石中教育フォーラムの実施

年度末の校内研修にそれぞれの思いを語り合う石中教育フォーラムを実施した。班のメンバーと、それぞれの思いを語ることで1年間の成果と課題の振り返りとした。



生徒力の向上

①アサーショントレーニング（通称：朝トレ）

生徒同士の関わりの希薄化・自己肯定感の低さが全国学力テストやとちぎっ子学力テストでここ数年本校の課題となっている。昨年度秋から始まった朝トレを今年も週に2回の朝の時間の全校一斉放送で実施することで授業での学び合いの土台形成を図った。

②石中タイム

本校は生徒が各種調査から家庭学習をしないという大きな課題がある。そこで毎朝20分間の学習時間を確保して集中した自主学習の習慣を身につけさせた。また石中タイムの時間に以下の2つも適宜実施した。

- ・読書WEEK 毎月一週間読書期間実施。
- ・朝の個別学習（数学） 数学定着度調査（TIOT 検査）を7月全校生実施。どの段階でつまづいているかの調査を実施した。その結果をもとに朝の個別学習を学年ごとに週に一回行った。※石橋地区小中一貫教育の重点科目

③生徒から生徒への啓発（学習委員会の生徒） 今年度より新しく発足した学習委員会による生徒による学力向上を呼びかける活動の実施『石中生全員偏差値UP』のスローガンをもとにした活動を展開した。

4 本年度の成果と課題

①成果 生徒の思考を論理的に筋道立ててまとめる手段として「書くこと」を全教科で実践した。書かせる内容については、「育成すべき資質・能力」の三つの柱のどの力をねらうのかを視野に入れ「書くこと」ことで生徒の「深い学び」につながる振り返りとした。書かせる指導の取組の成果は、学習状況調査や各種調査に今後反映されるであろう。特に教科部会を活性化させ授業改善に取り組んだ成果は大きい。教科の教員が協働して課題解決に向け取り組んだ。それを土台で支えたのが異教科・異年齢の授業公開からの授業研究会である。年間60回を超える授業研究会が自主的に行われ授業力向上に向けて真摯に取り組む教員の意欲や態度や教師間の関係性の向上が見られた。その結果、我々が目指す「魅力ある学習課題のある授業」の実現に向けて大きく前進したことが、生徒の学校評価アンケートの『教員の授業に対する項目』で伸びが見られたことから分かった。 ◎昨年度との比較で数値上昇

②課題 昨年度からの継続研究が多く、必然性があれば教員間で共通理解を図り、主体的に研修や実践に取り組めることを今年度は特

H30 調査項目	中1	中2	中3
先生方は、疑問や分からない所を大切に授業をしてくれる	4.5 ◎	4.4 ◎	4.4 ◎
授業で「ねらい」が示され見通しをもって学習に取り組める	4.7 ◎	4.6 同	4.6 同

に実感した。その積み重ねが、教員間の同僚性を高めることにつながり、より一層、研究は活性化されると思われる。今後も成果や課題を教員間で共有しながら、学校課題解決に向けての必要な研修や手立て等をボトムアップで吸い上げ提案することを続けたい。継続した取組は学校が抱える諸課題にも功を奏し、更に大きな成果を挙げられるものと確信している。学校課題研究をいかに我々教員の当り前にするかが課題である。